

2021年11月までの東京都食中毒発生状況（速報値）11月30日現在

2021年11月末までの都内の食中毒の発生状況が、東京都から公表されました。

11月の食中毒速報値は合計4件で患者数は11名でした。

1 事件数（11月分までの累計）

70件（2020年同期108件、2019年同期108件、最近10年間の同時期118件）

2 患者数（11月分までの累計）

449名（2020年同期3,344名、2019年同期778名、最近10年間の同時期1,719名）

3 死者数（11月分までの累計）

0名（2020年同期0名）

4 月別食中毒発生状況

（1）2021年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	4	7	16	4	2	5	5	5	6	12	4		70
患者数 (人)	5	154	41	9	7	116	13	40	25	28	11		449

（2）2020年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	11	19	11	3	5	6	10	7	8	14	14	6	114
患者数 (人)	66	250	64	5	75	9	28	2,558	16	143	130	15	3,359

（3）2019年 月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	16	10	7	11	10	7	7	11	9	11	119
患者数 (人)	81	34	154	90	20	35	25	113	113	61	52	87	865

（4）最近10年間の月別発生状況（2020年までの平均値）（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	12.3	10.7	11.4	9.9	9.2	12.0	10.2	10.2	12.4	10.5	8.7	12.5	130.0
患者数 (人)	271	237	136	179	86	111	56	364	96	90	94	218	1,937

5 病因物質別発生件数

11月の4件の内訳はアニサキス食中毒が3件、ノロウイルス食中毒が1件でした。

患者数はそれぞれ3名、8名でした。

カンピロバクター食中毒の報告がありませんでしたが、飲食業の自粛が解除され、消費者も居酒屋に繰り出す機会が増えている状況ですから、カンピロバクター食中毒の発生が増加すると考えられます。

11月の速報値では報告がなくても現在調査中なども含めて、12月の速報ができれば今月のカンピロバクター食中毒の報告があるかもしれません。

		令和3年（2021年）				令和2年（2020年）					
		11/1～11/30		累計(11/30まで)		11/1～11/30		累計(11/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
ウイルス	ノロウイルス	1	8	6	54			13	124	14	131
細菌	カンピロバクター			17	54	4	13	20	173	21	177
	黄色ブドウ球菌			2	26			4	29	4	29
	ウエルシュ菌			4	250	2	81	4	336	4	336
	セレウス菌			1	2			1	4	1	4
	腸管出血性大腸菌			2	7			1	10	1	10
	毒素原性大腸菌							1	2,548	1	2,548
	カンピロバクター及びサルモネラ							2	6	2	6
寄生虫	アニサキス	3	3	35	36	5	5	52	54	56	58
	シュードテラノーバ							2	2	2	2
化学物質	ヒスタミン			1	17	1	28	3	47	3	47
	次亜塩素酸ナトリウム			2	3			1	1	1	1
自然毒	植物性自然毒							1	3	1	3
	動物性自然毒					1	1	1	1	1	1
不明						1	2	2	6	2	6
合計		4	11	70	449	14	130	108	3,344	114	3,359

6 原因施設別発生件数

原因施設別発生状況は下表のとおりです。

4件の食中毒原因施設のうち、魚介類販売業のアニサキス食中毒以外は一般飲食店が原因施設でした。

		令和3年（2021年）				令和2年（2020年）					
		11/1～11/30		累計(11/30まで)		11/1～11/30		累計(11/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
飲食店	一般	3	10	52	168	7	16	70	270	74	277
	仕出し			1	21			3	2,746	3	2,746
	自動車			1	5						
集団給食	要許可			2	149	3	109	7	155	7	155
	届出			2	89			3	124	3	124
	届出対象外									1	7
魚介類販売業		1	1	5	5	1	1	8	8	8	8
飲食店（一般）、そうざい製造業								1	10	1	10
飲食店（弁当）、魚介類販売業						1	1	1	1	1	1
つけ物製造業								1	10	1	10
菓子製造業				1	6					0	0
家庭				4	4	1	1	3	5	4	6
不明				2	2	1	2	11	15	11	15
合計		4	11	70	449	14	130	108	3,344	114	3,359

(注)飲食店の「一般」には、一般飲食店、すし屋、弁当屋、そば屋を含む。

7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

(1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都福祉保健局)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin_topics.html

(2) 東京都の食中毒発生状況

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/tyuudoku/index.html>

(3) 全国の食中毒発生状況（厚労省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html

8 元食品衛生監視員のつぶやき

そのシーズンのノロウイルス食中毒の発生傾向を予測する際に、国立感染症研究所が発表している感染性胃腸炎の発生動向調査がよくつかわれます。

昨年は、非常に発生件数の少ない年となりました。

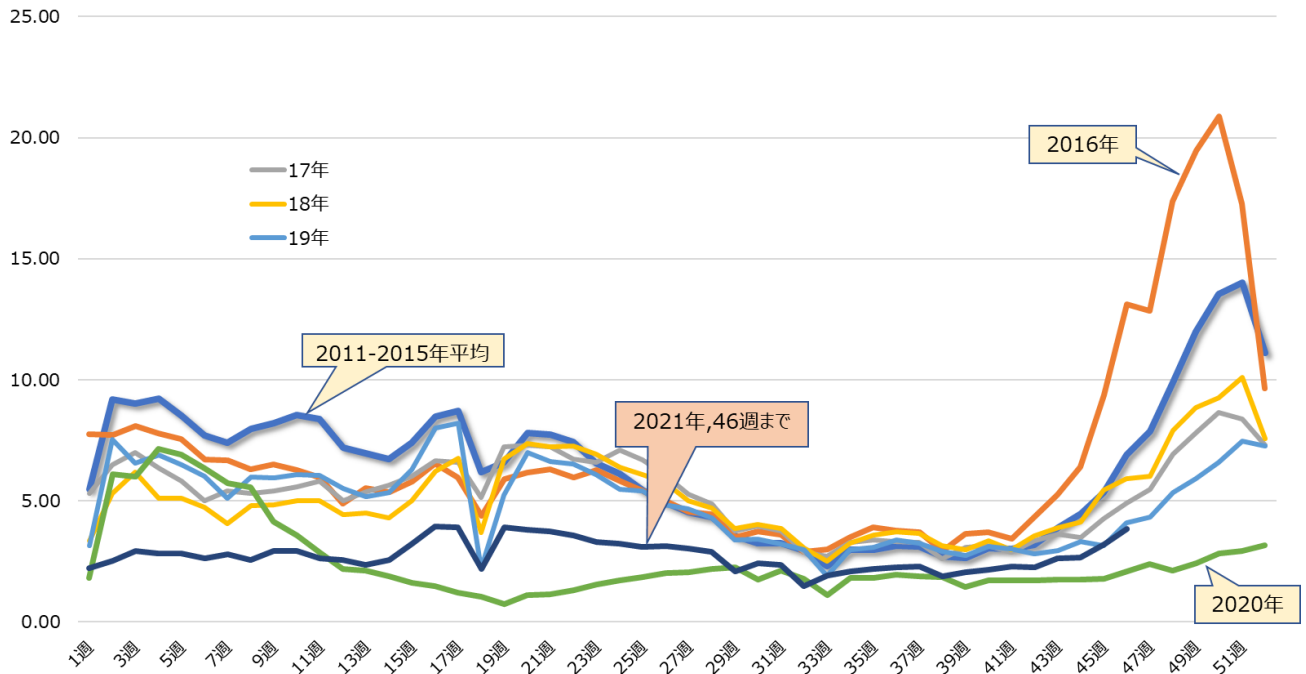
最近5年間では、2016年が多発した年となりました。

こうしたノロウイルス食中毒の発生傾向と感染性胃腸炎の定点報告数がどの程度相関があるのか、そして今シーズンの予測はどうなるかを見てみたいと思います。

まず、感染性胃腸炎発生動向調査ですが、これは、全国約3千カ所の小児科定点医療機関を受診し感染性胃腸炎と診断された患者数を、週ごとにまとめて集計したものです。

小児科が対象ですから、食品由来よりもヒトヒト感染の方が多いいことも推測されます。

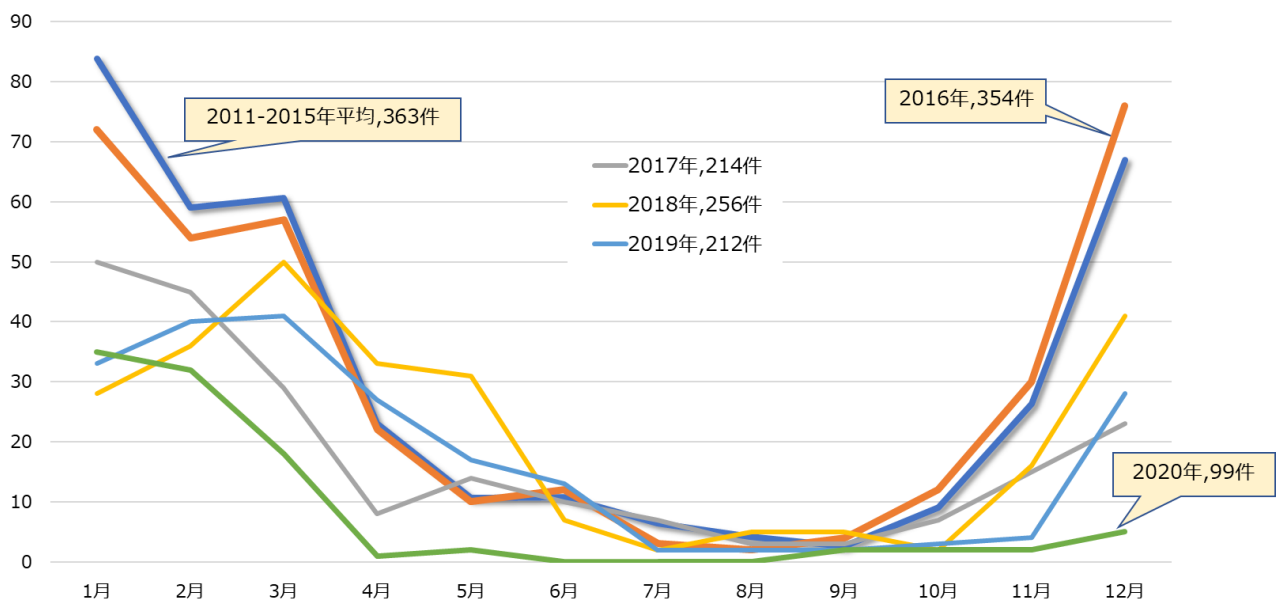
感染性胃腸炎 年次別・週別報告数



このグラフは、2016年から2021年46週までの報告数の推移を表したものです。2011年から2015年までの平均も同時に描いています。

一方、ノロウイルス食中毒の月別の発生件数を表したものが下のグラフです。

ノロウイルス食中毒 年次別・月別発生件数



いかがでしょうか。

2016年が最も件数が多かったこと、次いで2011年から2015年の平均値が多く、2020年が非常に

少なかったことが読み取れます。

この傾向は、感染性胃腸炎の報告に順位などが似たような傾向となっていることがうかがえます。さらに、2011年以降の年次別のノロウイルス食中毒発生件数の推移を下に示しました。

最近5年間では、2016年が最も多く、2020年は最少となっています。

なお、2011年から2015年の平均は、ほぼ2016年度同数となっています。

これを見ると、やはりノロウイルス食中毒の発生件数と感染性胃腸炎の報告数に相関があるようです。

そこで、最初の感染性胃腸炎のグラフを改めてみると、2021年の46週までの報告数は、昨年と比較すると、40週付近から昨年以上を上回っており、その差はどんどん大きくなって、2019年の動向に近づいています。

こうしたことから、今年の冬から来年の春までの今シーズンのノロウイルス食中毒は2019年並みになることが予想できます。

飲食業の自粛解除が進み、会食や外食の機会が増えますから、どうぞノロウイルス食中毒対策をもう一度徹底するようお願いします。

